

～旧約聖書を読んで感じること～ (51) 最初の王 サウル



槍を持つサウル Guercino

ベニヤミン族にキシユという勇敢な男がいました。その息子サウルは美しい若者で、彼の美しさに及ぶ者はイスラエルにはだれもいなかった。民のだれよりも肩から上の分だけ背が高かった。(サム上 9:2)

と評されるほど、姿形が優れていて、その上戦闘になれば誰よりも果敢に戦う、ベニヤミン族の若者でした。父キシユの口バ数頭が姿を消したので、それを探しに従僕一人を連れてサウルはエフライムの山地を過ぎて、ツフの地までやって来ました。ちょうどその時、サムエルがツフに来るようになっていたため、従僕に勧められて、自分たちや口バの行方などの先見を求めて、四分の一シェケルを捧げ物にして、サムエルに会いに行きました。

サムエルはその前日、「ベニヤミンの地から一人の男をイスラエルの指導者として遣わす」との主の声を聞いていたので、サウルを喜んで迎えました。サムエルにとっては、外敵の脅威の中で、最も勇敢な部族であるベニヤミン族、その中でも、きわめて体格のいい、美しい男であるサウルであれば、中心になって働いてくれると思わずにはいられませんでした。

「全イスラエルの期待は誰にかかっているとお思いですか。あなたにです。そして、あなたの父の全家にです。」サウルは答えて言った。「わたしはイスラエルで最も小さな部族ベニヤミンの者ですし、そのベニヤミンでも最小の一族の者です。どんな理由でわたしにそのようなことを言われるのですか。」(サム上 9:20-21)

サウルは驚きましたが、サムエルはサウルに上座の席を与え、共に食事をしました。翌朝早く、サムエルは従者を先に帰し、神の言葉を告げるためにサウル一人を残し、聖別の油を注ぎました。

サムエルは油の壺を取り、サウルの頭に油を注ぎ、彼に口づけして、言った。「主があなたに油を注ぎ、御自分の嗣業の民の指導者とされたのです。」(サム上 10:1)

サムエルはミツパにイスラエルの全部族を集めました。くじでベニヤミン族が選び出され、キシユの息子サウルを王として立てることに決めました。その時サウルは荷物の中に隠れていたのですが、見つけ出され、サムエルの「見るがいい、主が選ばれたこの人を。民のうちで彼に及ぶ者はいない」との言葉に「民は全員、喜び叫んで言った。「王様万歳。」と叫んで、サウルを王として迎えることになりました。「油を注がれ」、また、「民の前での儀式」を経て、サウルは王とされたのです。

一方サウルは、民の指導者としての使命をしっかりと理解できませんでしたが、王という最高の地位に推され、上気した気分で、サムエルの言葉に従ったのです。さすがにベニヤミン族の男であり、戦いという場面になると、激しく燃え、同胞にすら恐怖を与えるほど獰猛になる人物でした。けれども内心は自信が持てず凶体は大きいものの、気が非常に小さい男でした。また、捧げ物も少額しかしていないので、ケチな部分がある男ではないかと想像します。

サウルは初戦で、アンモン人と戦い、勝利を収め、民に王としての実績を示すことが出来ました。サムエルはベニヤミン族の地、ギルガルを拠点として、王国の樹立を告げ、土師としての引退をも伝えました。サウルはその後兵士を選びすぎり、各地に配置し、ペリシテ人の守備隊の陣地を打ち破りました。そのため、ペリシテもますます強硬に闘う姿勢を見せ、イスラエルの民は恐れ、動揺し、身を隠し始めました。兵士たちが自分の元から去っていくのを恐れたサウルは、祭司サムエルに待つように命じられていたにも関わらず、自ら焼き尽くす捧げ物を捧げる儀式を行いました。それは祭司の勤めであり、純粹に神に祈るものではなく、人心をつなぎとめる手段であったため、サムエルは激しく怒り、神のみ心に反したサウルには王権が続かないことを伝えたのです。